

週日の説教

金 大烈 神父 2011年12月6日(火)

《自分の中の羊飼い ～人生の主人として生きていますか～》

今日は、面白い話から始めようと思います。

ある先生が、三人の息子を持つお父さんに今日の福音(マタイ 18・12 - 14)を聞かせて、どう思うか質問しました。そのお父さんは、商売が上手で大成功した人でした。お父さんは、「これは、数字にもものすごく弱い羊飼いですね。よく考えてみれば、99匹を残して1匹を探しに行くはずはありません。私は、そのような愚かな振る舞いは、一度もしたことがありません。だからこのように成功したのです。」と答えました。

それから何年か経ち、そのお父さんは3人の息子のうちの1人を見失ってしまいました。その時、その先生はもう一度質問をしました。「見失った息子のために、何とかしようと思いませんか。」と。最初のうち、そのお父さんも心を痛め、見失った子どもの心配でいっぱいになりました。しかし冷静になると、「まだ二人の息子が残っています。いなくなった息子は、何とか1人で生きて行くでしょう。残った二人の息子をしっかりと育てることが、良い結果になるでしょう。」と言いました。

そして更に何年か経ちました。今度は、そのお父さん自身が山の奥で道を失ってしまい、真夜中になりました。1人の息子を失っても二人の息子を選んだお父さんですが、「すみません。私を救ってください。」と祈りました。

これは、私たちの生き方をたとえた物語だと思います。私たちは、死ぬ時には自分の命に全てをかけます。しかし生きている過程では、自分にとって大事なことだと分かりながら、諦めて、放棄してしまうことがたくさんあります。

こういうことを誰よりもよく理解しているのが、私たちの飼い主であり救い主であるイエス様ではないでしょうか。

このメッセージから私たちが考えるべきことは、二つあります。

一つは、私たちは、本当に立派な、どんな事があっても信じられる、信頼できる羊飼いを持っている幸せな羊だということです。

もう一つは、私たちも自分の人生の羊飼いだということです。私も皆様も、自分の人生に対しては羊飼いなのです。羊飼いの立場にならなければいけません。そして、誰よりも素晴らしい牧者が自分の人生を通して見せてくれた模範に従い、よい牧者として自分の人生を何とかしようと努力しなければなりません。誰よりも自分自身に頼っているのに、自分を嫌って捨てようとする自分の心のために、見捨てられてしまった自分がいるかもしれせん。

今日の福音を少し違う角度で考えてみました。自分の人生に対して、主人として向き合ってきたか考えてみましょう。そして、もし反省すべきところがあれば、悔い改めましょう。直すべき所があれば、直して行きましょう。そのために必要な力があれば、イエス様に求めましょう。

ありがとうございました。